

黒部市立鷹施中学校



地域の方々に支えられて

本校は、昭和42年に海に近い黒部市立白鷹中学校と山の麓にある黒部市立布施中学校が統合して、黒部市立鷹施中学校として創立され、令和2年3月に、その歴史に幕を下ろします。鷹施中学校の「鷹」という字は、立山を開山したと言われている佐伯有頼の白鷹伝説に由来しており、本校のグラウンドから眺める僧ヶ岳や立山連峰の山々は雄大で大変素晴らしい風景です。

特色の1つとして、地域の方々に指導していただいている民謡部や三味線部の活動があります。特に地域に伝わる「新布施谷節」という民謡は、三味線部の生徒による生演奏と地域の保存会の方々の協力により、体育大会において女子全員が踊りを披露するのが伝統となっています。

4月からは、黒部市立高志野中学校との統合により、これまでのよき伝統や校風を継承しつつ、「黒部市立清明中学校」として、新たな歴史と文化を築いていくことになります。

黒部市立高志野中学校



脈々と流れ続ける合唱文化

本校の校風は「合唱文化」と言い換えることができる。昭和44年2月より、卒業生への感謝と旅立ちのはなむけの気持ちを込めて、在校生が自らの手で作詞・作曲を行う「卒業生を送る歌」の創作活動が開始され、途絶えることなくこんこんと湧き出る清水のように継承されている。

昭和55年頃からは合唱の形を取り入れており、混声四部合唱の曲も創られたことがあるが、現在は三部合唱が基本となっている。卒業式では、在校生の心がこめられた透き通った歌声に、3年生や教職員が大粒の涙を流して聴き入る光景が見られる。

合唱は本校生徒の精神的な支柱であり、集会に向けての合唱練習は、生徒同士の心を通い合わせ、仲間意識と強固な連帯感を育む潤滑油となっている。

この合唱文化が、統合する鷹施中学校の文化と融合しながら、確実に継承され、日々、生徒たちの心にたなびくことを願っている。

長い歴史に幕・閉校 東五位小に統合、なお校名は「五位小」に変更

高岡市立石堤小学校



心のふるさと石堤

「あゝむかし 小矢部川荒れ 石堤築き ふせぎけん」(旧校歌)
古代の村人は、川の流れの平穏を祈って水神を祀り、石の堤を築いた。その水神様を祀る神社が鎮座する土地の小学校として開かれた学校が、その後移転や統合を経て、明治25年10月1日に石堤尋常小学校と改称し創立された。

大正、昭和、平成を経て令和へと、石堤の人々の教育に対する熱い思いは今も脈々と受け継がれており、米作りやいもの栽培、わら細工などの体験活動を取り入れながら、地域と学校が一体となって子供たちの健全育成に努めてきた。地域の人々の懐かしい母校として、また、「心のふるさと」として仰がれてきた石堤小学校が127年の歴史を閉じる。

4月から子供たちは、小矢部川の橋を渡り、川向こうの学校へ通うことになるが、小矢部川の水神様も地域の人々と共に、今後も子供たちの安全と健やかな成長を見守り続けてくれることを願う。